

今日のトピック 日本のGDP成長率と株式市場の動向 内需の回復基調が徐々に強まる

ポイント1 1-3月期は+2.4%成長

外需は4四半期ぶりにマイナス寄与

■内閣府は20日、1-3月期のGDP統計1次速報値を発表しました。実質GDP成長率は、前期比年率+2.4%と伸びが加速しました。消費税増税の影響を脱し、住宅投資や設備投資が4四半期ぶりにプラスとなり、個人消費は緩やかながら3四半期連続のプラスでした。2014年度の実質GDP成長率は前年度比▲1.0%と、消費税増税の影響から2009年度以来のマイナス成長となりました。

■1-3月期の寄与度を見ると、内需(民間在庫品増加を含む)は3.1%のプラス寄与でした。民間在庫品増加のプラス寄与が2.0%と大きく、個人消費は0.9%のプラス寄与、住宅投資、設備投資はそれぞれ0.2%のプラス寄与でした。外需(純輸出)は、マイナス0.7%と4四半期ぶりのマイナス寄与でした。中国向けなど輸出の鈍化が影響しました。

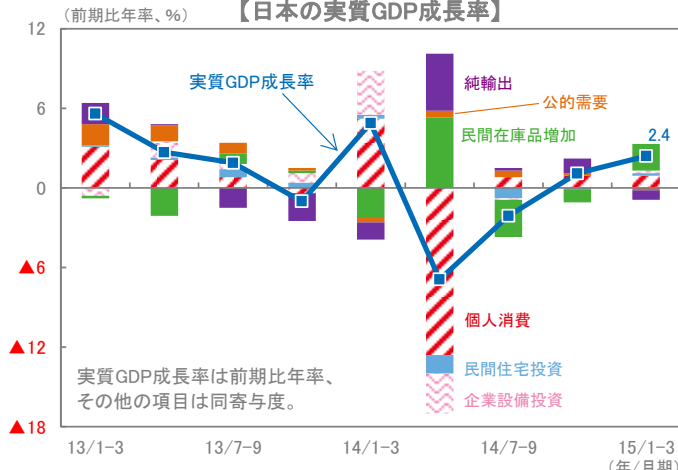
ポイント2 株価は年初来高値を更新

米ドル円レートは約2カ月ぶりの円安

■20日の日経平均株価は、前日比170.18円高の20,196.56円と、終値ベースで4月23日に付けた年初来高値を上回りました。欧米の株高や今回のGDP統計が市場予想を上回ったことなどが好感されました。

■米ドル円レートは、121.00円(20日15時現在)と約2カ月ぶりの円安ドル高となりました。GDP統計が市場予想を上回ったことよりも、米国の景気の底堅さを背景としたドル買いが優勢となった形です。

【日本の実質GDP成長率】



(注) データは2013年1-3月期～2015年1-3月期。実質GDP成長率は前期比年率、その他の項目は同寄与度。

(出所) 内閣府のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【日経平均株価と米ドル円レート】



(注) データは2014年1月6日～2015年5月20日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 2015年度は内需の回復基調が強まり、1%台半ばの成長に

■企業収益の拡大などを背景に賃上げが進展していることもあり、個人消費の回復の勢いが強まりつつあります。また外需は、アジアや欧米向けが底堅く推移することで今後持ち直すと見られ、2015年度は1%台半ばの成長が見込まれます。

■株価は、5月初旬に一時19,300円を切る水準まで下落しましたが、企業の好調な決算発表が好感され、持ち直しました。今後は、景気の緩やかな回復に伴い、企業収益の拡大に沿った展開になることが期待されます。

ここも
チェック!

2015年05月15日 「街角景気」、全国的に明るさが増す(日本)
2015年04月30日 日銀政策と株式市場の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。